

上下布両側に余長を持たせたガラス接合用エアバッグのご提案

—真空吸引時、外周部に発生する『ウネリ』の抑制によりファスナー外れを防止—
下記にて従来の平型と今回ご提案の上下立体型の真空状態外観比較致します。

圧着対象サンプル

曲げ板（アルミ）形状



上下立体型品バッグ構造

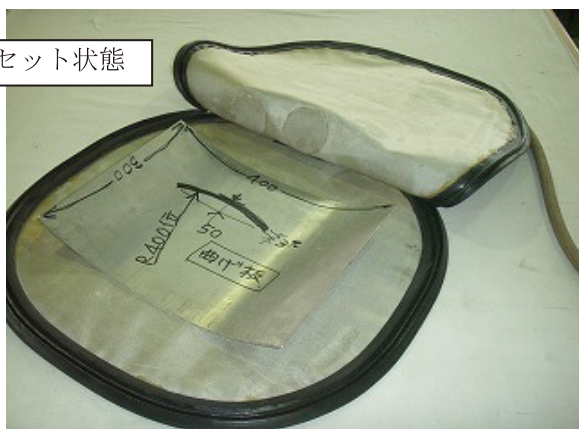


上下双方に各50mmの余長（立ち上がり）形状

- ・バッグ外寸 600×600mm
- ・バッグ耐熱 ~160℃

従来平型形状

セット状態



バッグ表側



バッグ裏側



ファスナー部分が引っ張られ『ウネリ現象』を呈する

上下立体型品



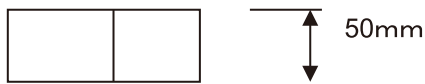
余長の範囲内の場合『ウネリ現象』を回避。
真空引き中ファスナーも平らな状況を維持！

上下布両側に余長を持たせたガラス接合用エアバッグのご提案

—真空吸引時、外周部に発生する『ウネリ』の抑制によりファスナー外れを防止—
 下記にて従来の平型と今回ご提案の上下立体型の真空状態外観比較致します。

圧着対象サンプル

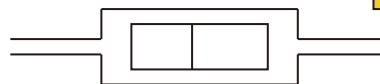
角材の寸法



縦×横 = 120×120mm

上下立体型品バッグ構造

- ・バッグ外寸 600×600mm
- ・バッグ耐熱 ~160℃



上下双方に各50mmの余長（立ち上がり）形状

従来平型形状

セット状態



上下立体型品



バッグ表側



バッグ裏側



角材の高さ分のゴム布がバッグ中央方向に引っ張られ（角材側面に垂直に圧着）結果として外周部に『ウネリ現象』を呈する

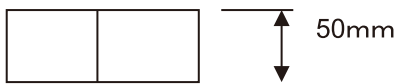
角材高さが余長の範囲内の場合『ウネリ現象』を回避。上布のみに立ち上がりを設ける場合角材下面にフラットに圧着可能です（通常は上下面の中央で圧着）。

上下布両側に余長を持たせたガラス接合用エアバッグのご提案

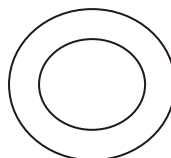
—真空吸引時、外周部に発生する『ウネリ』の抑制によりファスナー外れを防止—
 下記にて参考例ご提示致します。ガラス以外の成型にも応用が可能です。

圧着対象サンプル

角材の寸法 縦×横 = 120×120mm



圧着対象サンプル



・バッグ外寸
600×600mm
・バッグ耐熱
～160℃

角材を離れて配置

セット状態



バッグ表側



バッグ裏側



こちらの場合も余長の範囲内であれば『ウネリ現象』を回避。
 対象物厚さ×数量×2＝合計余長の関係。
 50 × 2 × 2＝ 200(片側100)

リング状の対象物の場合



セット時に内径部に下布をつまんでおき、上布をかぶせて真空引き。こちらも圧着可能。

SANUP 12-05

2012年7月